

令和元年度 堺市感染症発生動向調査委員会 会議録

開催日時：令和元年 10 月 28 日（月）14:00～16:00

場所：堺市衛生研究所別館（堺市保健医療センター内）1 階会議室
（堺市堺区甲斐町東 3 丁 2 番 6 号）

出席委員：岡村 隆行委員、川村 尚久委員、中尾 治義委員、
平山 謙委員、中野 佳世 委員、池上 雅久委員、
長 等委員、山本 憲委員、（8 名）

欠席委員：鈴木 克洋委員、柴田 仙子委員、八田 宏之委員（3 名）

傍聴者：1 名

事務局：堺市衛生研究所

樋口次長、三好総括研究員、福田主任研究員、江渡主任研究員、木村研究員

議案：

1. 会長・副会長の選出について

会長には川村委員、副会長は平山委員が選出された。

2. 議題（1）平成 30 年感染症発生動向調査事業報告

感染症情報センターより平成 30 年度の堺市内での感染症の届出状況、ウイルス検査担当及び細菌検査担当より、平成 30 年度に行った感染症等に関する検査結果の報告を行った。

（2）感染症トピックスについて

最近の感染症の発生状況について

百日咳が平成 30 年 1 月より全数把握感染症に変更された件について

（3）平成 30 年感染症法改正の概要

梅毒及び後天性免疫不全症候群（HIV 感染症を含む）の発生届の様式の変更について

疑似症定点の定義及び指定基準の変更について 等

3. 主な質疑応答、意見等

・腸管出血性大腸菌（EHEC）が検出された中で原因は、食中毒など判明しているものはあったか。

→ 原因がわからないものが多い。焼き肉屋で生肉を食べた等の疑い事例は数例あるが、食中毒として断定されたものはなかった。

・レジオネラ属菌が検出された事例は、特定の施設でのアウトブレイクではなかったか。

- レジオネラ属菌は高齢者の感染報告が多いが、特定の施設ではなかった。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）の検出が増えているとの話だったが、薬剤耐性遺伝子を持っている菌は5例だけだったのか。
 - CREの発生届が出て検査した52例中、5例が薬剤耐性遺伝子を持ったものだった。感染者は特定の施設に集中していたわけではなかった。
- CREの感染届出者は、高齢者が多かったのか。
 - 薬剤耐性遺伝子の有無にかかわらず、発生届で報告されるのは70代、80代等高齢者が多い傾向がある。
- 薬剤耐性遺伝子を持っている菌が増加すると、アウトブレイクの発生が危惧される。
- 小児科定点と内科定点はどちらが多いのか。
 - 小児科定点の方が多。
- RSウイルス感染症は、流行の時期が変わってきたのか、例年より前倒しで流行しているようである。
- 百日咳は、どうして全数把握感染症になったのか。
 - 百日咳で重症化するの6か月未満と従来から考えられていたが、学齢期に入ると抗体価が下がっていることが判明している。学齢期の追加ワクチンには百日咳が含まれておらず、ブーストがかけられない。学齢期の接種にも百日咳を含めるべきだと国には訴えている。乳幼児の親世代である成人の百日咳は症状からの診断が難しく、患者の把握が出来ていないため、親から乳幼児への感染事例が多いと考えられている。成人を含めた正確なサーベイランスが必要と考えられたため全数把握となった。
- イギリスで劇症型溶連菌が増加しており、ワールドカップの来日で日本に入ってくる可能性も気になっている。
- 定点医療機関について、地域により偏りがあるし、長くやっておられる先生が多いが若い先生に移行していった方が良いのではないか。
- 堺市は関空にも近く、麻しんの発生やO157の集団発生もあった地域であり、サーベイランス事業は大切であるので、今後も期待している。